

令和元年11月1日(金) 第5校時 指導者: H R T 学級担任 (T1)
 小中連携 中学校英語教諭 (T2)
 E V T (地域ボランティア) (T3)

- 1 単元名 「Introducing Akagome to the world. ～赤米を世界に発信しよう～」
 教材名 『We can!1』 Unit 2 「When is your birthday?」 行事・誕生日

2 単元の見積

- 月日を尋ねたり答えたりする表現について、聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の大文字と小文字を書くことができる。 (知識・技能)
- 月日を尋ねたり答えたりする表現について、聞いたり言ったりしている。また、月日を含む既習の表現を使って、赤米のよさを伝えている。活字体の大文字と小文字を識別したり書いたりしている。 (思考力・判断力・表現力)
- 他者に配慮しながら、英語表現を使って赤米について紹介しようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 月日を尋ねたり答えたりする表現について、聞いたり言ったりしている。 ・ 活字体の大文字と小文字を識別したり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月日を尋ねたり答えたりする表現について、聞いたり言ったりしている。また、月日を含む既習の表現を使って、赤米のよさを伝えている。活字体の大文字と小文字を識別したり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者に配慮しながら、既習の英語表現を使って赤米について紹介しようとしている。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと [発表]	ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

5 指導上の立場

(1) 単元観

本単元は、総合的な学習の時間「赤米は新本の宝」、学校行事「学芸会」と関連させながら進めていく。外国語科としては、1学期に慣れ親しんだ自己紹介の表現と月日を聞く表現を劇作りに活用し、英語で赤米について伝えることを目標としている。そのためには、総合的な学習の時間で、新本の赤米についての理解や体験を深め、児童が他者に伝えたい内容をしっかりとった上で言語活動を行うことが大切である。また、赤米のよさを世界に発信するために、英語劇を作り上げていくという大きな単元のゴールを設定することで、英語で表現する必然性を感じ、主体的に活動に取り組めるようにする。児童が新本・種子島・対馬の三つの地域の赤米を調べていく中で、それぞれの地域の違いに気付き、そして互いのよさを認め合いながら、そのよさを世界に発信するために必要な表現を獲得したり、既習の表現を生かしたりしながら、自分の考えを英語で伝えることができるようにする。

文字指導では、活字体の大文字や小文字を識別し、必要に応じて書くことを目標としている。劇を作る際は、自分が考えたせりふを覚えておく必要がある。そこで、書くことに必然性をもたせ、自然と書きた

いと思えるように指導していきたい。

(2) 児童観 (男子9名 女子0名 計9名)

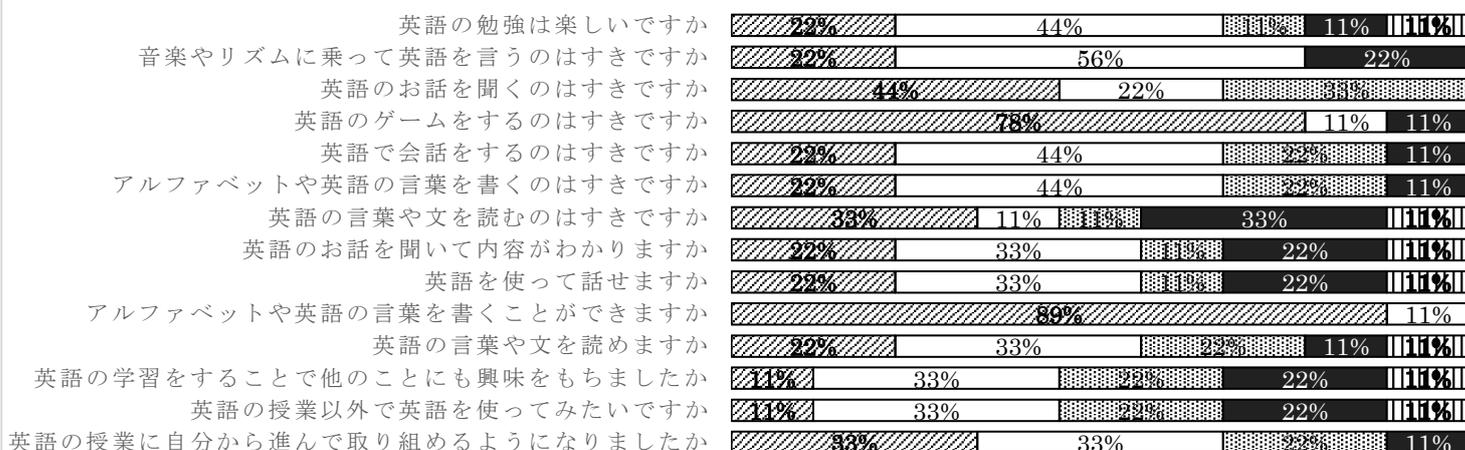
本学級の児童は学習課題をつかむと、解決に向けて一生懸命取り組み、自分の考えを積極的に発言しようとする姿が見られる。集団で遊ぶことが好きで、英語の中でも、体を動かし、ゲーム性の高いものに対しては、意欲的に取り組むことができるが、そうでない活動になると意欲が低くなる傾向がある。アンケートの結果(図1)からも、その様子が分かる。また、分からないことでも最後まで聞こうとする児童は多いが、自らの考えを言葉にして話そうとすることに課題がみられる。

そこで本時では、会話を続けたり、積極的にコミュニケーションをとったりする力を Small talk を通じて身に付けさせたい。そして自分の思いを劇にする活動を通じて、英語で話すことの楽しさにも気付かせていきたい。

※図1：今年度6月に5年生に対して行ったアンケート結果 (n=9)

5年 英語アンケート (6月)

☑とても □まあまあ ☒ふつう ■あまり □ぜんぜん



(3) 研究主題との関わり

本校の研究主題「自分の思いや考えを伝え合い、地域や世界とつながろうとする児童の育成～本物で必然性のある外国語活動・外国語科を通して～」に迫るために、本校の考える仮説を基に、次のような工夫をする。

仮説1について

単元や発達段階の特性を踏まえて言語活動を工夫することにより、児童は、自分の思いや考えをもち、それを伝え合おうとするであろう。

本単元は、月日の表現と既習表現を用いて、児童自身で劇のせりふを考える活動を取り入れる。登場人物になりきって、「Where are you from?」にはどんな答えがいいだろう、それぞれの地域の赤米の特徴を伝えるにはどんなことを言えばいいのかな、それは、英語で何て言えばいいのかな、などの思考を働かせながら自分の考えを英語で表現することができるようにする。本時では、三つのグループに分かれて活動する場を設定することで、ひとりひとりが伝えたい思いを言葉にできるようにしていく。中間交流の場面で互いのよさを認め合い、全員でよりよい劇を作ることができるようにしていきたい。

仮説2について

学びのつながりを意識して単元(新本オリジナル)を構成すれば、本物で必然性のある言語活動が生まれ、児童は主体的に学習に取り組むであろう。

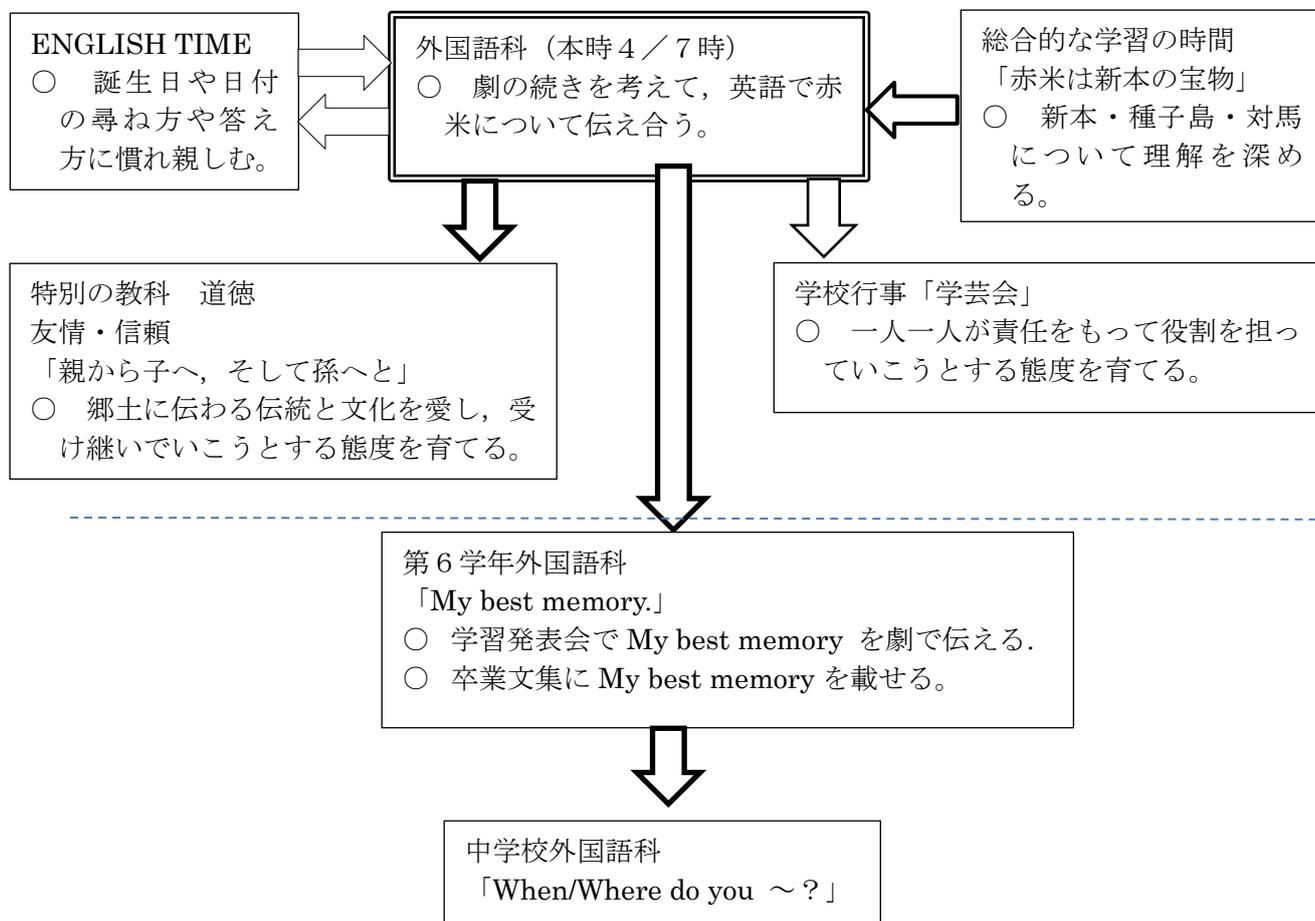
本単元は、総合的な学習の時間「赤米は新本の宝」、学校行事「学芸会」と関連させながら進めていく。総合的な学習の時間で、新本の赤米についての理解や体験を深めることで、児童が赤米について伝えたいという思いをもって言語活動に取り組めるようにする。児童はこれまでの学習で、赤米を世界に発信し、新本のよさや赤米の伝統を伝えたいという思いが強くなっている。世界に発信するためには日本語ではなく英語を使うことで、よりたくさんの人に伝えることができるということに気付いている。だからこそ、英語を使う必然性生まれる。赤米を多くの人に伝える場として、まず「学芸会」をゴールとして設定する。本時では「学芸会」で、英語劇を発表するという大きな単元のゴールに向かって、伝わる英語で表現する必然性を感じ、主体的に英語劇を作ることができるようにする。さらに劇作りで習得した表現を使って赤米を世界へ発信するための動画作りや、対馬・種子島の児童へのビデオレター作りの活動にも発展させ、英語でより多くの人に伝えられる喜びを実感できるようにしたい。

仮説③について

様々な人々と関わることによって、コミュニケーションの楽しさを味わい、より広い世界に目を向けるであろう。

児童にとって英語劇は初めての活動である。そこで、HRT・ALT・小中連携担当教員・地域ボランティアがモデルを示すことで、見通しをもって活動できるようにする。また、劇のせりふを考える活動では、児童が「英語で何て言えばいいんだろう。」と思考する場面が想定される。本時では、その場合の解決方法を児童に知らせ、児童がALTや小中連携担当教員、地域ボランティアと話し合いながら、自分が言いたいことに合う英語表現を見つけていけるようにしたい。せりふの練習場面では、ALTや小中連携担当教員が手本として示し、多くの他者を意識した、クリアで大きな声での発音ができるようにする。そして、英語で赤米を表現できるようになることで、日本だけでなく世界へと発信することができることに気付かせたい。

6 関連構想図



7 本時案 (第4時)

(1) 本時のねらい

- ・ 劇のせりふを考える活動の中で、既習の表現を使って、赤米について伝え合う。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援(●HRT, ▲小中連携 ★EVT)	学習評価
<p>1 Greeting</p> <p>2 Warm up</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Song 「When is your birthday?」 ・ Japanese culture <p>3 Review</p> <p>前時までの振り返り</p> <p>4 Demonstration</p>	<p>●▲ 英語で挨拶をした後、気分や天気、曜日、日付について尋ねることで、日常的に使える英語表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>▲● 児童と一緒にリズムにのって歌を歌うことで、楽しく月に関する英語を覚えることができるようにする。</p> <p>● テーマを英語とジェスチャーを使って伝えるようにすることで、既習表現を積極的に使うことができるようにする。</p> <p>●▲ 教師と一緒に、前時までの劇を全員ですること、自己紹介の表現に慣れ親しむことができるようにする。</p> <p>▲ スクリーンで場面絵(写真)を提示することで、発音している言葉と意味が結びつくようにする。</p> <p>●▲★ 本時の劇の場面を教師が演じ、途中で止めることで、続きを考えようとする見通しをもつことができるようにする。</p>	
	<p>新: Hello.I'm 新本○○.What's your name?</p> <p>種: I'm 種子島○○.What's your name?</p> <p>対: I'm 対馬○○.Where are you from?</p> <p>新: I'm from Shimpon.</p> <p>種・対: Shimpon?</p> <p>新: Shimpon is at Soja.Soja is in Okayama.</p> <p>種・対: (Reaction)</p> <p>新: Where are you from?</p> <p>種: I'm from Tanegashima.</p> <p>新・対: Tanegashima?</p> <p>.....(続く)</p> <p>新 We have Akagome in Shimpon.</p> <p>種・対馬: Me too.We have Akageme.</p> <p>(Reaction)</p> <p>新: When is the harvest in Tanegashima?</p> <p>種: Harvest is ○○ in Tanegashima.</p> <p>新: (Reaction)</p> <p>種: (Reaction)</p> <p>.....(続く)</p> <p>新: What make you proud of Akagome?</p> <p>種: (穂が長い・時期が早い・たくさん実が付く・男性だけ)</p> <p>対: (主藤さん・行事が多い・男性だけ)</p> <p>新: (子どもも参加・市長さん・本庄と新庄)</p>	

<p>5 Aim</p>	<p>Aim 劇の続きを考えて、英語で赤米について伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループで調べたものや具体物、写真などを見ながら、赤米の何を伝えたいか話し合うことで、伝えたい内容をはっきりさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(予想) 新：たくさんの人が関わっている。 種：丈が長い。 対：主藤さんが作っている。</p> </div>	
<p>6 Activity①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●▲★ どんな英語の表現が使えるかを、話し合うことで劇作りの見通しをもつことができるようにする。 ● 三つのグループに分かれて劇のせりふを考えることで、英語が苦手な児童が友達の活動をまねながら参加できるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(予想されるやり取り) 種：It's ~ ○月○日. (特徴・自慢) 対：What color? 種：It's green. It's not red. 新：How tall? 種：150cm.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ▲●★ 各グループの発言を聞いて、伝えたいことを英語で表現する手助けをしたり、正しい発音を示したりして、児童の活動を促進する。 ●▲★ 考えが思いつかないグループや的外れなやり取りをしているグループには、掲示物を示し、総合的な学習の時間で学習した内容を想起させ、多くの人に赤米について伝えようという気持ちをもつことができるようにする。 ● 三つのグループの様子を観察し、よさを全体に広げること、意欲を高められるようにする。 	<p>◇劇のせりふを考える活動の中で、既習の表現を使って、赤米について伝え合おうとしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(発言)</p>
<p>・ 中間交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●▲ できあがった劇を互いに見せ合い、よかったところ、工夫しているところを伝え合うことで、英語で伝える楽しさを実感させ、よりよいものを作るヒントになるようにする。 ● 発表の中から使っていきたいキーワードを取り上げ、黒板に書くことで、より意識して話し合いができるようにする。 	
<p>7 Activity②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●▲★ 再度、劇の続きを考え、ポイントを絞って取り入れたい表現を話し合うように促す。 ●▲ 全体で改良した点を発表し合い、交流することで、全員でよりよい劇を作ろうとする意識をもたせる。 ●▲★ 参考にするグループをもとに練習をすることで、作り上げる達成感を味わうことができるようにする。 	<p>◇劇のせりふを考える活動の中で、既習の表現を使って、赤米について伝え合おうとしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】(発言)</p>

8 Comment time	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時のキーワードをワークシートと一緒に書き写す。 「Harvest」 ●▲ 次の観点で振り返りを行うことで、自分の変容やよさに気付くことができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・進んで劇作りに取り組めたか。 ・友達のよさを見つけることができたか。 ・今日の学習の感想を書きましょう。 	
9 Greeting	<ul style="list-style-type: none"> ●▲ 児童の活動の様子でよかったところを称揚することで、次時への意欲につなげることができるようにする。 	

- ・リアクションが大切だと分かった。
- ・〇〇さんが、たくさん意見を出したので、よい劇が作れた。
- ・劇の発表に向けて、もっと新しい表現を知りたい。

(3) 板書計画

Goal

赤米を世界に発信するために劇を作ろう。

Aim

劇の続きを考えて、英語で赤米について伝え合おう。

稲刈りの写真

伝えたいこと

- ・長い
- ・男しか入れない
- ・色が違う

When is the rice planting in ~?
 What make you proud of Akagome~?

使えるような表現

- ・ How tall?
- ・ Only men.
- ・ What color?

Harvest